

吉井勇論(4) — 第一章 家系 その四

鷺 只 雄

はじめに

私はこれまでに吉井勇について二つの拙稿(吉井勇『酒ほがひ』〔明治43・9・7 昂発行所〕に全注釈と解説を施した拙著『桐の花・酒ほがひ』〔明治書院・近刊予定〕及び「吉井勇論序説——初期習作と家系をめぐって——」〔平8・3・14「国文学論考32号」都留文科大・国文学会〕参照)を書いただけの、短歌にも、勇にも全くの門外漢であるが、その素人の気楽さから率直に言わせてもらおうと、吉井勇の研究は非常に遅れていて、伝記の面でも作品研究の面でも基礎的、基本的な調査さえ行われていないのが現状である。勇の第一歌集『酒ほがひ』に全注釈を施す仕事をしてみて、そのことが肌身にしみてわかると同時に大いに困惑した。家系や伝記について信頼すべき調査は殆どなされておらず、勇の回想に従っているのが実情で、そのため回想には思い違いや齟齬が多く、それが何時のことなのか、それが本当なのかどうか、判断できない事態に遭遇することになったからである。

また作品についても同様で、作品の初出調査もごく一部になされたのみで、永く放置されたままであった。

そうした状況からの前進をめざして前掲の拙稿では資料の新たな発掘と調査を試みた。これに対して早速、歌人で短歌史研究の重鎮である篠弘氏が「東京新聞」の「短歌月評」(平9・1・5 2面)で、

子規・左千夫・茂吉をはじめとする根岸短歌会にたいして、新詩社の「明星」派の歌人研究が遅れている。天折した啄木ぐらいではないか。『白秋全集』が完結した白秋もむしろこれからである。鷺只雄「吉井勇論序説——初期習作と家系をめぐって」(都留文科大「国文学論考」32号)といった研究が、ようやく出現してきた。

として、紹介して下さったのは望外の幸であった。もっぱら二十世紀の小説を研究対象としてきた専門外の私にとってはこれは大きな励ましであり、稿を続ける上での支えとなったからで、氏のご厚情にあらためて感謝しておきたい。

前稿にも記したように、吉井家の家系——特に祖父友実についての膨大な資料と父幸蔵についての資料については既にマイクロフィルム化して入手しており、目下解説・整理中であるが、B4判で恐らく一万枚を越すと思われる分量であり、書類・書簡の年月日決定・更に殆どが達筆な毛筆で書かれていてその判読に時間がかかるなど困難な問題が山積しているため、それら全てが解決してから発表ということになる、いつのことになるかわからないので、とりあえず、祖父友実の日記を整理要約して彼の生涯の行実を明らかにした上で、周辺の事実を積み重ねていくことにしたい。

祖父友実から始めるのには、幕末まで「薩摩藩の輕輩」(吉井シツ子「勇の母」)「私は百二歳・一世紀を生きてきて」昭和42・3「文芸春秋」引用は山崎朋子編「女の生き方40選 上」平7・4・10 文春文庫 による)であった吉井家を友実が、西郷隆盛や大久保利通と共に国事に奔走して大いに家名をあげた中興の祖であるからで、彼は明治天皇の信任厚く、伯爵となり、元老院議員・日本鉄道会社社長・宮内次官・枢密顧問官などを歴任した(一八二一年生まれ、九一年没)。

また、友実は勇の言によれば「歌の師」(「解説」昭27・7・25「吉井勇歌集」 岩波文庫)でもあるからで、実際残された資料からみても、友実は自由に歌を作り、知友と歌会を催し、絵を描き、歌日記や紀行文をものするなど、殺伐無風流な薩摩隼人とは大いに趣を異にし、風流韻事を楽しむ風雅の士でもあったことを証しているからで、その点からも友実の究明は重要であるが、その点については前掲の拙稿でふれたのでここでは繰り返さない。

ここで友実の日記というのは宮内庁書陵部蔵「三峰日記」のこと

で、一から七まで全七冊あり、明治2年2月26日(本文を除いて題簽類は「自明治二年五月」と記すが、これは臨時帝室編修局で大正一一年一月に吉井家から借用して転写した際に誤記したものと思われる。というのは本文は「明治二年二月二六日」から記述されているからである)から明治21年1月10日まで記されている。無論、途中の脱落も多い。

先程もふれたようにこれは原本ではなく、毛筆による転写本なので体裁については簡単にふれておくと、和綴じの冊子本で、タテ27・3センチ、ヨコ20センチ、タテ罫一頁10行。第一巻の本文記載頁数は137であるが、これは巻によつて多少の異動がある。参考までに記すと、日記の本文記載頁数は次の通り。

- 一——一三七頁(明22～55)
- 二——一五二頁(73～712)
- 三——一五九頁(121～1212)
- 四——一六六頁(131～1311)
- 五——一四三頁(141～149)
- 六——一八四頁(161～1612)
- 七——一八〇頁(171～211)

繰り返して言うが、以下の日記の記述は「三峰日記」の翻刻ではなく、私が必要と思われる部分を取捨選択の上、それを整理し、要約したものである。原文を一、二例示する。

明治二年二月二六日

中将公前浜御乗船正午御出帆同二八日夜十二字大坂川口へ御着

船同二九日御上陸本願寺へ御宿陣相成ル

岩倉卿御在坂二付淀橋御上り場ヨリ直ニ御使者被仰付

長州侯ニハ二六七日頃御上京相成候由承ル

永山源藏へ公用人被仰付候御書付相渡ス岩倉卿へ二ヶ條之御趣意

申上云々ノ御返答アリ

三岡八郎會計方被免長岡左京御召捕相成タル由

函館千人計決死其外瓦解ノ勢ニ候由

東京奥羽之間平穩

攘夷家盛ニ成立有志会ナド有之候由

木戸未夕帰京無之広沢病氣ノ由

同年三月五日

林良輔野村右中建白書持参今晚入御覽候所願クハ両藩御寵遇之願

意列藩へ推及一視同仁之

叡慮貫徹仕候様之御趣意書加へ方御沙汰有之

原文は右のような漢文訓読体・漢文体・候文体などの混淆した独得の文体で書かれており、また、日記であるために人物の説明などがなく、しばしばイキナリ固有名詞が登場するために理解の困難な部分もある。

凡例

以下に本稿の日記を記述するに当たつての凡例を示しておく。

1 原文の趣を出来るだけ尊重して文語調を模したが、表記は新字、

新仮名とした。但し、詞書、和歌などについては原文通り旧仮名とし、その他の場合についてはそのつどことわつた。

2 友実の行実を主としたために、それからズレルものについてはカットしてあることをおことわりしておきたい。ただし、固有名詞についてはできるだけ拾い上げることにした。

3 外国の地名の表記で確認できるものについては、可能な限り今日の表記に改めた。同じく人名については確定しがたいものが多いので原文の表記のままとした。

4 誤記・誤脱と思われるものについては改めたが、中には（）を付して、その中に正しい表記を示した場合もある。

5 時刻表示は1く24時制とした。

6 () 内の記述はことわりがない限り、驚の付した注である。

7 判読不能の文字は□で示した。以上がそのあらましであるが、これ以上の件についてはそのつどことわつた。

以上のようなまえがきと凡例を付した「はじめに」をつけて拙稿「吉井勇論(Ⅰ) 第一章 家系 その一」(97・3・31「都留文科
大学大学院紀要1」)同「吉井勇論(Ⅱ) 第一章 家系 その二」(98・
3・23「都留文科大学大学院紀要2」)「吉井勇論(Ⅲ) 第一章 家
系 その三」(99・3・23「都留文科大学大学院紀要3」)を発表し
た。本稿はそれに続く第四稿で、明治14年5月1日く同16年3月31
日までの期間のものである。

猶、冒頭に記した拙著「桐の花・酒ほがひ」(明治書院・和歌文学
大系29・今西幹一氏「桐の花 担当」との共著)は98年4月15日に
刊行された。

四

明治一四(1881)年(承前)

- 5月1日 今朝江ノ島を出立し12時過ぎ神奈川着。田中屋で午餐。14時発の汽車に乗り、品川で下車し、山尾を訪うも不在、直ちに帰宅。お沢が来ていて暫時談話。そのうち中助不快の由を申すので療治すると忽ち快癒。今夜大山で食事する。 条公より両大臣に当てた書状を遣わされ、有栖川家へ持参、家令に渡し、且つ染筆を願ひ置く。
- 2日 今朝下条来る、条公の書を渡す。かつて頼まれていたものなり。工部省へ出頭し、山尾と談話す。九州地方に器械製造場建設の件なり。
- 午後、平岡来る。山尾への暇乞いなり。
- 夜、宮島へ行く
- 3日 山尾が明日より出立につき、今朝暇乞いに行く。西丸へ11時から出張し、土方らに面会する。
- 4日 伊藤参議が工部省へ来て、土方が内務へ転任となり、御造管係は榎本に決定の由伝えられる。九州地方に製造場建築の義を申上げたところ、早速調査に着手する様話される。
- 今朝、山尾出立。少々不快に付き、吉川君を呼び、針治療する。
- 5日 退出後、針治療。
- 6日 西丸に出張し、土方、桜井と会う。15時より平岡の招待で中井と同車で行く。会する者、伊藤、山田、矢戸、児玉、土方、林など。三弦・円龍の落語あり。熱海から書状来る。
- 8日 今朝、佐藤与三、小林秀和来る。郡上八幡の豪商杉本某絹一切れ持参して来訪。昨年止宿した所の主人なり。午後、恒庵と博覧会に行き、元黒門町の紙屋で扇面紙二束買う。夜、佐七熱海より帰る。
- 9日 今日、麻布島津邸へ行く。臨幸があり、犬追物・相撲を天覧し、14時頃から袖ヶ崎に御成りになり、東郷源四郎の弓術を所望、見事な腕前にお喜びになられる。義弘公ご秘蔵の蘇東坡の書を拝見し、珍物と見受けたり。
- 10日 10時より西丸へ赴き、榎本、品川らと皇城建築の評議をする。榎本は土方に代わって今日から出仕する。夜、琴平市で植木を買う。
- 石井省一郎来る。
- 11日 午後、佐々木来る。昨日熱海より帰京の由。伊地知の一件懇ろに話あり。宮島も来る。
- 6時頃から海江田に牡丹を見に行く。伊藤・大隈・黒田・松方・河野・樺山等も来る。
- 12日 川村より海軍省の松材千六百本譲渡する旨の返答があり、一同大いに喜ぶ。
- 午後、岸良へ行く。雨谷・天雨・野津等来る。雨谷より竹と小金井小景の二枚を貰う。
- 13日 袖ヶ崎の島津邸に皇太后宮、皇后宮の行啓があり、能

と座頭三曲それに荒木の尺八を交えたのが妙なり。また西が琵琶をひいたのも良かった。何如璋、張斯桂来る。

14日 10時過ぎより工部大学校生徒の卒業証書授与式があり、山尾の代理を務める。東伏見宮、北白川宮、山県参議、その他来会し、式後立食。

13時の汽車で熱海へ迎えに行く。14時頃神奈川を出発。途中二人引きの人力車で急がせ、21時頃小田原へ着き、中松に一泊。静岡県令大迫も同泊し、暫時談話。

15日 朝、5時に小田原を出て13時頃熱海着。直ちに伊地知、一柳の宿所を訪ねる。夜、浄瑠璃を聞く。一柳も来る。16日 今日子供等を同伴して、海蔵寺のあたりを散歩する。心気爽快なり。

17日 朝、8時に熱海を出発して帰途につく。一柳が暇乞いに来る。吉浜で昼食。15時頃小田原着、中松で暫時休息し、大磯の立花屋に一泊。

18日 8時に大磯を出て、藤沢で小休止、戸塚で昼食、15時神奈川に到着し、15時15分発の列車で帰京。夜、小石川林町の土方の別荘に行く。佐々木、元田ら来る。

19日 工部省に出頭。

午後、米花堂で画会、今月会主なり。

20日 工部省より西丸へ出張し、榎本らと会う。三条殿に参り、九州地方に製作所設置の意見書を差上げ、且つ伊地知恒庵採用の件を願ひ出る。

夜、宮島、斎藤篤信来る。朝、関山源三郎来る。

21日 岩倉殿に鉄道会社へ金五千円差し出すべき旨返答する。午後、中井の送別会を林徳左衛門宅で行う。寺島、吉原など来る。

22日 晚景より通町常盤亭河村雨谷の画会に出席。山口尚芳が来て、今日の暮会に出席を求められ午後からゆく。会する者、有栖川宮、岩倉、大隈、岩村、柴原、大木等。柴原と二番、岩村と三番打つ。

23日 朝、黒田へ行き、木炭の件を話す。これは山尾から相談してくれる様云って来たからである。また石炭の見本も送ってくれるように頼む。帰路、川村を訪ね、過日観音崎で落馬したのを見舞う。14時過ぎ中井と同車して福地に刀を見に行く。西郷、大山、樺山、益満等も同席。帰途、築地寿み屋へ行く。荒巻香谷の画会があればなり。

24日 朝、正治熱海から帰京したとて来る。いろいろ話をするうち怪しき事も多くある。正貨六百円持参し紙幣三千円借用したいとの事ゆえ中井に頼んでおく。

今夕、朝鮮人金正、西徳次郎、大山、宮島、大高、林等を招き晚餐を饗す。西はロシアに十年余留学時アジアを経て帰国。十年前出發の折り、予は蘇武に習って帰れと歌一首を詠んで送ったと西は云うが、予はすっかり忘れていた。

25日 午後、竹の屋で大野義方の送別会を開く。池原兄弟も

来る。帰途天神夜市で植木を買う。

中井、今日から九州へ出立。おゆうも今日へ行く。

正治借入金千五百円持ち遣わす。

26日 松方宅で午餐の饗応を受ける。イギリス公使、オース

トリア公使並びに大木、佐野、九鬼、鈴木金蔵、神小川某、吉原等も来会。

27日 16時に参朝せよとのお達しにより、参内、島津忠義君

も一緒に洗心亭において酒肴を賜り、西幸吉の琵琶を聞く。歌一首詠みて奉る。

おもひきや己が故郷のしらべをば雲井のうゑにきかんものとは

23時頃帰宅。今日井上勝宅での会談あれども断る。

28日 林と材木町の井上勝の旅寓を訪ねるも不在、書面で暇乞いをし、煙草一箱を送る。彼からも茶一筒を送られる。

午後、野津宅で画会。雨谷、王洋ら来る。また、一柳の招待で梅塘

、恒庵と同行。松方、土方も来会。

幸蔵よりの書簡来る。

29日 梅塘、栗香、恒庵同道にて博覧会を見る。帰途、佐々

木の招きにより玉川堂に行き晚餐。斎藤篤信も来る。

本日本家内一同隣農舎へ行く。

30日 退出後、閑居。夕刻、雷鳴強雨。

31日 平岡と同道、猿江のR貯材場を見る。帰途、新燧社に立寄り、晚景帰宅。遠武来訪。

6月1日 山尾、昨日帰京につき、朝訪問。加藤濟、池田政章、

西幸吉、益田孝、等来る。

2日 朝鮮使節二人、工部大学校に参観。斎藤利行の葬儀に

つき青山へく。

第三十三国立銀行上野吉二郎が正治借用の金千五百円を持参。夕刻、これを青山へ持参し渡す。

朝、出勤途中に西郷に立寄る。税所議官の件を早々に掛け合うようとの件なり。

3日 朝鮮人金儲元工部省へ来て、鉾山見学を要望。午後、

西丸に出張。それから佐々木を訪ね、谷干城辞表の件を聞く。

4日 ボットア北海道出発のため本日面会。11時頃から隣農

舎へ赴く。途中袖が先近辺で、名保・寅と一緒にになり共に行く。五時頃より伊藤参議を訪問。宮島も来る。

5日 小石川林町の土方の別荘に行く。松方、佐々木、本田、

宮島ら来会。終日書画、琴、碁、甚だ心神を楽しましむ。本田に預けておいた百円の証書を受け取る。

6日 ボットア工部省へ来て談話数刻、三池波止場建築見込

種々あり。河瀬秀治鉄道会社の件で来る。

午後、山尾、河野に直談判のため農商務省へ行く。

正治此の頃挙動にいささか怪しきところある旨、原田宗介、甥隆清ら来談につき夕刻青山に行く。宮島、本

田らは既に帰ったとて正治は寝ておりそのまま引き取る。帰途、恒庵を訪うに、本日修史館御用係を命じられたとの事。

7日 西丸へ出張。正午より工部省へ出頭。本田へ書画会に行く。東久世、竹亭、河田、研田ら来会。

8日 宮島と同道して青山を訪う。甥の徳二より聞くに甚だきずかわしいという。

夜、田中司法卿の宅に招かれ、福岡、九鬼、安場、田中健介、野津、宍戸、杉らと会食。

9日 朝鮮人数名、電信中央局器械所と大学校を参観、午餐を出す。

一柳の件に付き西郷、松方、大山らが来て評議に及び、予が宮内省御用係御免の案を提出、各々異議無し。本人は昨夜から横浜金沢辺へ出かけておるにつき、明日本田が伝えることにする。本日米花堂にて例会。

10日 一柳の後を追って本田が横浜へ出発するが、心もとなので宮島と一緒に十時過ぎの汽車で横浜へ行き、佐野茂へあがり、本田に連絡する。本田が来ての報告によれば、昨夕既に帰宅、別に異常もなかったと言うので昼食の後十四時の列車で帰る。夜、東久世、河田、下条、本田、宮島ら来りて画会。本日、秋田県下横手分局の電報に立志社員暴動、殺傷ありしとの事。

11日 朝、安藤則命来て、一柳にしかるべき取り締まり人を附け置くべしとのことゆえよろしく頼み置き、樺山資紀にもこの点連絡する。

午後、恒庵、俊介と番町辺りの売り地を見、更に穩田村に行き、元姫路酒井の地所を見る。

12日 終日閑居。宮島来訪、御巡幸の件を聞く。晚景、林董

の宅へ行く、朝鮮人金庸元、金正摸ら来会。

13日 宮島、工部省へ来て、今朝正治が書状をもって宮内省に申し立てた由につき、その書状を一見するに金五万圓一時お下げ渡しの際並びに月給返上などの事件ゆえ、本田に同行して相談の上、上記の件を申し出てくれる様頼む。

紅葉館で三条公の親睦会があり出席するに、座中ことごとく維新前より国事に奔走した人々なり。伊藤、山田、西郷ら来会。

14日 朝、原田宗介、伊地知助太郎が来て、昨夜より正治が甚だ不機嫌で終日人にも会わず引きこもっているのは是非帰郷の儀を話してくれとの頼みなり。

十時過ぎ宮内省で宮島、徳大寺殿に面会し、正治の件に付き委細を話す。それから西丸へ出張、帰りがけに宮島へ立寄ると正治が面会しないと事ゆえ、夕飯後青山へ行く。ところがすこぶる上機嫌でゆるゆる話し安心して帰宅する。

15日 ロシア海軍中将レンフスキーのために飾隊式あり。朝、樺山並びに阿久根の源兵衛来訪。

16日 午後、伊地知隆清、伊地知恒庵来訪。恒庵と同道して、宮島へ行き三人で赤坂より靈南坂を経て通町へ出、新橋を越え相生亭にて晚餐。岩谷へ立寄り喫茶、豚と煙草を買う。通町で名尾(保)、寅らに会う。宮島で高木助に久しぶりに会い、栗子隧道開通の話あり。

17日 朝5時頃より幸治がしきりに泣くので由良に診察を依

- 頼する。西丸へ出張、午後工部省へ出仕。
 今日大隈参議御建築係に任じられた旨桜井より聞く。
 正治宅へ祭事のため赴く。樺山、本田、宮島、三島、
 安藤ら来会。
 寅、火傷する。
- 18日 北白川宮の招待で博覧会美術館上で午餐後饗応あり、
 各国公使、諸省長次官来会。恒庵が築地寿み屋で宴を
 催すにつき、帰途寄る。
- 19日 本日祭典を行い、夜、大山、宮島、三浦、本田、伊地
 知恒らを招き、西幸吉に琵琶を弾かせる。
- 20日 宮島と同道して青山を訪ねるが格別異常なし。
- 21日 今朝未明、児玉愛二郎来て榎本の見込書につき質問さ
 れるが、いまだ入手せざる旨返答する。
- 22日 朝、高崎正風来て、鉄道会社頭取に投票多数で選ばれ
 たにつき就任を依頼され、承諾する。午後、松方来て
 密談数刻。晚景、大山、川村来る。林善左衛門上京し
 て来訪。
- 23日 工部省で午餐。直ちに参内し、伊地知、一条、区内卿
 に一通り申上げ、その後御学問所で拜謁し、建築の件
 に付き委細申上げる。金額並びに年限なども不明で且
 つ議論のみで埒明かざる旨大隈からお聞きになり、同
 人に係りを命じた由を聞き、いちいち弁解申上げる。
 また正治の件に付き一通り申上げる。
 夕刻、山崎屋で刀剣会あり、今村、野津、益満らに会
 う
- 24日 朝、正治の病気につき侍医を派遣せよとの御沙汰があつ
 た旨宮内卿から連絡あり。大山来訪、鉄道会社社長
 の件を伊藤より聞いたが、どうするのかとの間に尽力す
 る旨返答。西丸へ出張。三島より反物二反くる。
 樺山資紀から正治の帰県についての要請依頼あり。午
 後、青山へ行き、帰県の件を話すも本人は不承知なり。
 今夕、永林、岡部ら来訪。
- 25日 上杉老公の招待で両国の亀清へ行き、三島、宮島、森、
 外に家令一人同席。向島辺まで舟遊し暮景甚だよし。
 河野より税所の書状を受け取る。内容はお召とあれば
 上京する旨の返事ゆえその旨西郷に連絡する。
- 26日 宮島、本田、伊地知恒庵と同道して鑑賞会に行く。出
 品作中仇英の画幅尤物なり。林、岡部も来る。そこか
 ら浅草寿仙楼へ行き囲碁。帰路、日本橋まで歩き、そ
 こから車で帰宅。
- 27日 今夜、岡部来る。
- 28日 西丸へ出張。午後、水交社へ行き、四五六三ヶ月分の
 会費と食費一円を払う。
- 29日 先考正忌辰祭事執行、終日在宅。晚餐に大山一家、伊
 地知恒庵、林、岡部らを招く。
- 30日 朝、大山と青山へ売家を見に行く。夜、大山で晚餐。
 西郷、河村、樺山、福地、益田、小室、益満ら来会。
 工部省より西丸へ出頭。夜、食後宮島へ行き閑話。
 7月1日 午餐後、隣農舎へ行き、下条、岡部、林らも来る。名
 保、寅(治力)、中(助力)も来る。

- 3日 午後より宮島と同道して青山に一柳を訪う。やや回復と聞き暫時話して帰る。四谷の伊勢虎で夕食。
- 4日 榎本と共に宮内省に出頭しに西丸ご覧の件は宮内卿より言上。下条に招待され4時頃から行く。栗香、恒庵、林、岡部ら来る、米沢料理の馳走なり。アメリカ大統領銃撃されるの電報来る。
- 5日 岡部来る。
- 6日 税所高雄丸で上京の電報来る。岩倉殿様保養で今日から西京へ赴き、伊藤参議はこの頃箆居の由聞く。夜、岡部、林、帖佐来て囲碁、後、大山も来る。九鬼氏来て明後日の晩食に招待することなり。
- 7日 午後、伊藤博文来訪、談話中鉄道社長の件と大久保利和を内務部に採用する件などを話し食後帰る。22時頃税所着。本日、岡部の案内で新富座劇場へ家内中へ出かけ24時頃帰宅。2時頃就寝。
- 8日 今日、西丸へ出張。九鬼に招待され18時頃から大山と行く。福岡文部卿の妾おかなに久しぶりに会う。辻伴某に会う。
- 9日 恒庵に劇場見物を誘われたが断り、税所と得能へ行き、それから五代とベールを訪問し、終りに仙台坂の松方の別業に至る。月美し。本田、梅塘も来る。
- 10日 山崎屋より船に乗り、木母寺の植半に赴く。同行者は下条、宮島、本田、伊地知らなり。終日閑遊、月に乗じて帰る。
- 11日 聖上、西丸の建築現場をご覧になり大臣参議も陪従。
- 12日 12時より浅野家へ臨幸。午後、得能の主催で深川清へ行く。これは税所の歓迎会なり。三人終日昔話で最も興あり。帰途、日本橋より上陸し、通町を経て新橋まで歩く。
- 12日 晩景、税所と同道して青山に一柳を訪うも、清二郎方に行っていて不在。甲東鎮雄の墓に参っておゆうを訪ね20時頃帰る。本日、税所、議官を拝命。
- 16日 太政大臣三条実美殿の御取り次ぎで勲二等に叙せられる。
- 17日 山尾、今日出立のところ引き返した由。本田、河野、税所と同道して番町辺の売り家を見て歩く。帰途、宮島宅で夕食。三浦安、伊地知恒庵すでに来会。
- 18日 本日御陪食を仰せ付けられ伏見宮、北白川宮、九条殿、長谷殿、伊達殿、土方など同席。西丸地質取り調べの件を申上げる。
- 19日 山尾不快につき横浜より引き返したと聞き見舞いに行く。夜、本田、兎玉、野津、王洋、下条ら来る。豊後商人書画を持参する。
- 20日 西丸へ出張。午後税所と同伴で氷川町42番地の一柳の寓居を訪う。
- 20日 本日、有栖川宮、大木などの送別会が上野精養軒であったが気分が優れないので断る。税所転宅につき、大山、宮島と同行する。副島の子息死去につき見舞いをやる。支那の形勢用意ならざる事態に立ち至ると聞く。井上某、岩公に使いに出たと言う。山尾今日より釜石へ向

- けて出帆する。
- 21日 午後、税所と松金へ行き、帰途松方に立寄るが不在。黒田宅で伊藤、西郷らと談合。
- 22日 午前、宮内省へ出頭。伊藤、大隈両参議出席、榎本、平岡、桜井列席、西丸地質取り調べの件イギリス人タイヤク、フランス人テスカースらに詳細に取り調べるようとの指示は尤もなり。これは上意によるものと言ふ。午後、澹泊社の会に出席。
- 23日 午後、重野より大久保家伝並びに碑銘草稿を落手。清水誠、林、岡部来る。
- 24日 午後、黄遵憲来訪し、来る27日に電信器械所一覽の件を約束する。夜、野津鎮雄の一周祭に行く。
- 25日 税所と同道して鑑賞会に行く。予の所蔵する願升の幅を出す。会后、17時頃築地大椿楼に登る。これは中井の主催なり。
- 26日 10時に伊藤、榎本、桜井が工部省に出頭、フランス人デスカース、イギリス人ダイヤク、オランダ人某らを呼んで伊藤より地質取り調べの件を命ずる。その後12時前より西丸へ赴き、実地に検分し、13時過ぎにおのおの退出。帰りがけに西郷宅で麦飯を饗応される。
- 27日 午後、高島屋の手代山本源十来訪、正治注文品の委細を聞く。
- 28日 出勤の途中、清国公使官に立寄り黄遵憲に面会し、木村の一件を話す。
- 29日 午後、竹ノ屋で児玉の送別会を催す。
- 28日 朝突然幸蔵が帰宅し大いに安心する。今朝、横浜に龍驤が入港し直ちに上陸したとの事。
- 29日 青山御所へ出頭し暑中の御機嫌伺い及び宮中へも暑中伺いを申上げる。12時より津ノ守温泉へ行く。宮島、下条、岡部来る。但し岡部の遅参に困窮する。夜、幸蔵帰宅の祝宴を催す。税所、本田、下条、林、岡部、大久保、荒川ら来る。
- 30日 午後2時より紅葉館へ行く。鉄道会社からの招待なり。安場、中村、太田黒、伊達老公、武者小路、藤波その他数名なり。
- 31日 今日、中村議官が来て鉄道会社社長就任の依頼があり、承諾の返答をする。晚景、有栖川宮に暇乞いに参上。夜、下条来る。
- 8月1日 今日、御発輦につき6時30分参朝、見送りの一同に酒肴、拜謁を賜る。8時30分後発輦。この暑熱の中、国のために奥羽より北海(道か)まで御巡航の義誠に恐縮感慨の至り。夜、税所宅で本田、宮島らと会食。
- 8月1日 午後、宮島、本田来る。三人で霊岸島大國屋に行く。これは小生の受賞の祝いなり。後から税所も来る。帰途、副島を訪ね、通四丁目堀津でいろいろ買物をする。内閣へ赴き、伊藤参議に面会し支那の事情を聞く。ドイツホンブランドより岩公へ書簡到着につき、西京の岩公並びに宮島滞在の井上に、井上大書記官を派遣したとの由。また寺島に面会し藤島の一件を話す。夜、土方、山田信近、平岡通義を招いて余興に西に琵琶を

- 弾かせる。
- 2日 朝、安場、安川、高崎、大久保、原口ら来る。鉄道会社の仮免状が下りそのための評議と器械の注文の件を話す。
- 夕刻、本田へ税所、伊地知恒庵と同行する。故大久保碑銘校正を見る。
- 3日 凶師来訪、道路内務土木局で各県土木課を管轄し、また営繕局で普請方精細積方之書上木したい旨の申出あり。今日退出後初めて鉄道会社に出席する。夜、税所来る。
- 4日 午後、鉄道会社で会議があり、仮免状の不明な点につき伊藤参議に内談する事に決定。夜、宮島で晚餐。税所も来る。謙(謙か)信より景勝に授けた自筆のいろは手本を見せられる。今日、元老院に履歴書を改訂して提出する。
- 5日 午前、内閣に出頭し伊藤参議に面会、鉄道会社の株、利息などの点について訪ねる。
- 去る3日暁、皇女御降誕につき宮内省に祝意言上。
- 晚餐後税所に行き閑談数刻。
- 6日 佐野氏宅で午餐の饗応。来会者フランス公使、ボアソナード、平山、中村、前田等。前田は本日大蔵大書記官兼フランス理事官に任命。朝、安場、西村来る。安場は今日より帰県の由。夕刻、税所来る。
- 7日 税所、本田、宮島と同道して黒田を訪い、甲東の碑銘を渡す。清国に使節として派遣された節、清国から遣
- わされた書簡を見せられる。
- 紅葉館で昼食し、一睡。御成小路擁書城に行き、梅花譜、有山堂画譜を買う。夜、税所、本田来て夕食。
- 8日 鉄道局定額の件につき、大蔵省へ行き石渡調査局長に面会。午後、佐野に行き右の件で相談する。品川忠道来る。
- 9日 皇女御命名につき休暇となる。安川へ行き石井省の売地を見る。それより伊藤参議を訪い、鉄道局定額並びに本免状の件につき談話し、汽車で帰る。夜、中村、安川、西村、太田黒、林、白杉等を晚餐に招く。
- 10日 17時過ぎの汽車で税所、幸蔵、名保、寅治、幸治等上方へ行く。大有丸で四日市に向けて出帆。横浜林屋まで鎮武、正彦と送る。
- 11日 今朝4時に大有丸横浜出帆の由を聞くも、風強く航海の前途を案じ煩う。夜、中井、宮島、河島、加藤等と舟遊し亀清に上り夕食。榎本武場、吉田次郎は後から来る。河島は最近ドイツから帰国の由。
- 12日 太政官に出頭し伊藤参議に面会。高崎人民鉄道の件沸騰につき楫取県令より安心する様打電の要請がありその件に付き相談し了解を貰う。
- 西丸でデスカース等と会い16時頃まで話し地質はほぼよろしき旨聞く。河村来訪。朝6時、大有丸四日市に到着の電報あり。
- 13日 西京より皆無事到着の電報あり、大いに安心。宮島、岡部来る。

- 14日 終日在宅。朝、王洋が来て李流芳の幅を藤堂老公が一見したいとの希望により持たせてやる。熊吉が来て南洲の子供の件を相談する。夜、従道氏を訪う。本日炎熱甚だしく北方に遠雷きこゆ。
- 15日 14時より鉄道会社の会議で伊藤参議よりの利子償却の件に付き討議するも、各々不服ゆえに安川と17時過ぎの車で伊藤宅に赴き、談判の結果利子の償却は不要との結論に安心する。帰途、河村に立寄る。本日、午餐に宮島、中井、西郷菊、大久保利和等を招く。宮島菊次郎を見たしとの要望によるなり。
- 16日 山尾本日帰京、夜に訪問する。
- 17日 夕刻、栗香と本田に行き閑談。
- 18日 工部省より中井と同道して帰宅。午餐の後二人、車で病氣の前田、吉原、高島らを見舞う。
- 19日 大山が伊香保より帰る。河野来る。河田邸宅買入れの件を依頼する。児玉圭海来訪。
- 20日 今夕税所の留守宅を訪ね見舞金五十円おすが殿に渡す。帰途、岸良に立寄り恒庵と囲碁。
- 21日 帖佐と赤羽辺の売家の探索に行く。本日、大阪より税所と名保の手紙来る。
- 22日 安川来訪、本免状の草案を持参する。林謙徳も来る。宮島へ行き昼食を馳走になり、北沢、本田等も来る。
- 23日 13時より中村、安川来て本免状を検討し18時に終了。晚景、本田、宮島も来る。夕食後、水辺納涼及び画会。
- 24日 8時15分発の車に中村、安川と同車して伊藤に行くも不在。西郷に立寄り暫時談話する。玉泉楼で画会、元田某も来る。金臚元明日出立の由にて来る。
- 25日 米花堂で澹泊会があり岩下が会主なり。小牧が来て、大久保の碑銘を持参する。開拓使の件を詳細に聞く。
- 26日 米花堂の帰途、本田と一緒に平川天神により夜店を一見、28日の舟遊を約して別れる。
- 27日 安川が来て、鉄道年限の件につき談合。伊藤参議来訪、大隈の国会建白の件に付き種々密談、とても現在の形では済むまいとの話なり。予は「国会を開く目は如何」と問ひ、参議は「明治21年位か。但しこの件は早く布告するのが良い。又元老院を盛大にして、各県より二名宛て選挙して士族授産の方法などを論議させた」と。
- 28日 大山で夕食。
- 29日 朝、寺島が来て開拓使の件につき談合、後囲碁。晚景、はやし、岡部等来る。今日は亡兄正忌辰につき晚餐を振る舞う。
- 30日 朝、村田巳三郎、海江田武治来訪。松田が来て、西洋人三名が提出した皇居地質調査書を持参、一見後山尾に廻す。
- 31日 清水、岡部来る。織田完之来て日本農書の件に付き談合。
- 1日 13時過ぎより中井、本田、宮島、河村、雨谷等と山崎屋より船に乗り、向島柏亭で遊ぶ。

29日 本日例祭につき大山一家を招き夕食。

夜、幸蔵西京より帰京。名保よりの手紙届く。

川島梅坪来訪、自著の古今記要八大家を贈られる。

30日 工部省に出頭し、上坂の件ほぼ談合。清水来る

31日 河村、雨谷、本田、安川、下条、中路等来会。

9月1日 晩景、汽車で大山と西郷へ行く。

河村来訪、鹿兒島の士人方向を誤らない様河野、野村等に打ち合わせておく様話しておく。

2日 内閣に出頭し伊藤参議に面会、免状の件に付き相談し、午後、鉄道会社に出席。

本日から有馬行き予定なるも俄かに中止。山崎屋に行き、林が今晚出発ゆえ名保に金七十円届ける様頼む。

(以上、「五」)

明治一六(1883)年

1月1日 天気晴朗、午後、本郷、駿河台、飯田町、番町辺を年礼に廻る。

昨年中は鉄道に従事し、業大いに進む。今年もまた力を尽くし、線路の延長せんことを望み、一首を詠ず

国民の為に今年も玉鉾の

みちひらけなば嬉しからまし

去年の暮れ一首の狂歌あり

真直ぐに五十年来過ぎにけり

なほ行末もかくて経なまし

2日 旧臘28日幸蔵婚姻。媒酌は伊集院兼常氏なるをもつて今朝訪ねて労を謝す。

島津家その他へ年賀。

3日 午餐後、麻布辺へ回礼に行き、税所宅で暫時休憩、塩湯に浴す。夜、幸蔵夫婦来り、大山、大久保等と共に夕食。名保は静を同道して伊集院へお礼に行く。同氏に雪村の一幅を贈る。また猪飼、税所等にも紹介したという。

4日 朝、池田章政氏を訪う。

会社の仕事始め、会社建築並びに営業課を置く事を決める。

得能より国華余芳二冊と道風の書摺物一卷を贈ってくる。

野津、大脇、鎮武に年賀状を出す。

5日 塩湯より一柳を訪う。

今夜、お信の誕生日につき大山家の宴に招かれる。中沢夫婦、静、西郷等同席。

6日 株式課一同利子の渡し方に付いて評議する。

16時より紅葉館で宴会。大蔵省監査係、工部省鉄道局並びに会計局の人々、理事、委員、発起人等4、50名会同す。

帰途、松方に立寄ると、税所、川崎、久保ら来ていた。恵心僧都の画二幅を買い、代金は十円。

7日 官島来て昼食。

莊田、岩崎、伊達、中沢等を訪う。夜、宮島で宴会。能役者金剛鈴之助、竹内大友、仕舞数番あり。山吉、堀、小田切、小森沢等来る。税所も来る。

8日 会社に、オートリツチ来て品川線の件並びに営業の件に付き談判。

税所に行く。下条、狩野も来る。帰途、塩湯に入る。

9日 白杉、何、鈴木、斎藤、松崎、小林らを招き晚餐を供し、株式の件を相談する。肥田氏来る。

何辞職の件に付き池田、北川来社し、相談あり。

10日 7時15分に車を出し、9時過ぎ川口に到着。監査官矢戸、属官村上、副島、会社より何、白杉、二橋等臨乗する。9時30分汽車に乗り、12時過ぎ熊谷着。和泉屋で午餐。国沢も来る。土工、人夫等に酒肴を与える。

皆道路に出て感謝する。これは年頭の祝いと熊谷までの線路完成を祝つてなり。15時帰路につき、18時川口着。扇屋で夕食、22時半に帰宅。

11日 午後、会社から塩湯に行き宮島と会う。昨日、清国公使、松方と上野精養軒で会い、琉球の件につき話し、大いに真情を吐露し都合よろしく17時頃まで話す。それより新橋へ出て馬車で浅草、吾妻橋を経て向島の大蔵別荘に行く。これは前からの約束なればなり。安田、奈良原、伊集院、有馬等なり。税所は既に帰宅。平家琵琶や舞などあつて面白し。帰途、また馬車で新橋へ行きそれより徒歩で帰る。

前田正名帰朝したと中井から連絡がある。

伊之介の件を雄介より聞く。

12日 理事会で倉庫課、運輸課を置く事に決定。また瓜生を幹事に任命。午後、肥田浜五郎来て帝室財産の件につき相談あり。

神奈川停車場駅長助役朝倉直来て、会社に従事すべしと言う。

夜、大山で夕食。

幸蔵帰京。

13日 朝10時新橋から機関車を船積みの祭沈没。死者2人、負傷者5人誠に遺憾の次第につき会社より弔慰として金百円を杉に贈る。

夜、税所、本田、宮島、下条、伊集院ら来て夕食。桂谷竹を画き、予梅を添える、栗香が賛して曰く渭川百畝竹口嶺一枝梅。又桂谷虎を画き栗香が尹雄烈に贈つた詩を書く。談到獵遊呼酒戸。

14日 9時過ぎから能楽堂で観楽翁の三番叟、前田氏の鶴亀を見る。12時に伊集院に行き昼食。宮島、根本同席する。それから骨董店で鉄瓶一個を買う。一円五十銭なり。

前田正名帰国につき訪問する。伊藤参議等の様子を聞く。オーストリアのステインという大学者が地球上に極めて希にしかないという鳩を十羽携えてきたと言つて見せられる。この鳥は手紙を運搬すると言ふ。

塩湯に入り、本田、下条も来て松金で夕食。

15日 明治3、4年の頃民部、大蔵合併の頃勤務した者の親

睦会を紅葉館で催す。伊達公、大木、松方、山尾、玉乃郷、安藤、渡辺清、林友幸、石井省一郎、兵頭某、阪部某、島惟精等出席。

16日

17時頃、岩崎弥太郎の招待で池之端の別荘に行く。土方、大久保、二橋等同席。山海の珍味での馳走なり。長州、海軍省の話などがいろいろあり、大いに情実分かりたることも多し。

17日

埼玉県土木課長某来る。熊谷近辺の掘割の件につき尽力あり。

理事会で社費の予算決議。

精養軒で十五銀行の宴会があり、岩倉殿、池田、伊達、松浦、東久世その他数人会同。岩倉殿に岩崎弥太郎の件を申上げる。

18日

朝、5時頃地震。

塩湯へ行く、下条来る。後程下条来り揮毫する。税所も来る。

大脇正之丞上京、中村の子も一緒に上京。

19日

理事会で日本銀行と株金取扱条約議決。

宮島来訪し、松方と黎庶昌の談判を聞く。尚泰を琉球に返して県令に任じ、清の封冊を旧により受けるようにしたいとのことであるが些か不都合なり。予の考えでは尚泰を琉球に居住させ、私に清に仕えるようにさせ（黙許なり）、県令は純然たる日本人を任命するのが良いと答えておく。

夜、末川へ行く、建築甚だ美なり。中井、鉄道の詩十

首作る。本田、川村、税所、伊集院、宮島も後から来る。

思召しをもって幼学綱要6、7巻を賜る。

20日

荒川昇級の件を瓜生から建白。

中介乳母帰る。

昨夜、伊之介に暇をやる。

退出後、岩屋へ行き、紬煙草等を買う。

昨今寒暖計30度位、今日より大寒。

開拓方より炭5俵届く。

21日

朝、長谷川敬助来訪、熊谷の菓子と卵を持参。

山岡鉄太郎来る。

塩湯に行き終日遊ぶ。宮島、下条、小森沢、本田等と揮毫合作、大いに興あり。宮島の詩あり。

一堂相会意相親不問江南梅柳新天下無如我徒樂融々

和氣自為春

本田の歌あり

月はすみ風静なり芝の浦や

しばしば来べき所なりけり

22日
会社で、長谷川敬助より武者小路等会社取締役の件を総会で議決した模様を聞く。

塩湯へ行き、その後一柳宅で会話。税所、本田、伊恒

同席。一柳の歌

小夜中と夜はふけぬらし行きかよふ

ゆけの車のおとたへにけり

蒸気車を湯気的車とよみなしたり、いかがあるべしと

の話いと面白く聞く。今夜、旧暦12月14日、義士夜討ちより180年になる。

23日 理事会で総会の報告草稿についての議事あり。

16時頃から林徳左衛門へ行き謡曲を聞く。役者は宝生九郎、金春広成、桜間等なり。九郎の隅田川殊に面白し。

今夜、延遠館において芳川知事主催の夜会に出席し24時前に帰宅。ドイツ帝の弟死去につき舞踏は無し。

24日 今朝、雪降る。旧冬より7、8日間雨雪なかりしたため、いと心地よし。藤波侍従来る。また林賢徳上方から帰京とて来る。

理事会、昨日の続き、報告草案の件夜に入つて退散。大久保と精養軒に行く。

25日 澹泊会に墨梅を出す、7点なり。

26日 理事会で総会の報告議決。

藤波侍従来社、お召車の絵図面を提出せよとの御沙汰を聞く。

今夕、池原、児玉、本田、中沢、長谷川等を招きたるに、池原、長谷川のみ来て、他は来ず。この日鬱陶しき天気にて頭痛甚だしく、ついに客を謝して臥す。難儀なる日なり。

27日 明治会堂にて総会を開くを以つて検分に行く。

伊藤勅典、幹事補にて倉庫課長を命じる。

15時頃より塩湯へ行き税所による。

今夜、松方に会い、西郷隆盛特典の件並びに肥田浜五

郎より聞きたる帝室財産の件を話す。

昨夜、皇女御降誕の由を聞く。

28日 税所と同道しておゆうに立ちより青山へ墓参。片野へ行くも不在。

勝を訪う、午餐を振舞わる。

富田鉄之助、玉中、宮島来る。塩湯に行き、また税所宅で話す。

松方に琉地の件申し遣わす。

29日 朝8時過ぎ明治会堂へ行き、11時過ぎに総会開始、12時に休息、午餐。午後開会し、15時前散会。

印刷局で元田の講義があり、聴聞する。税所、宮島と同伴して帰宅し晚餐を共にする。

山口正定より水戸の塩辛及び鴨三羽を贈られる。

松平正直より来簡。

30日 藤波侍従お召車の件に付き来訪、会社の事情を逐一説明する。

塩湯に行き、それから本田へ行く。児玉、鈴木梅園、税所等同席する。宗像雲閣という書家も来会し、氏は逸雲、鉄翁等に随従した由。

31日 税所、宮島会社へ来る。同伴して馬車鉄道に乗り上野線一覽し、玉仲へ立寄る。勝並びに北岡等も来会。この日頭痛で不快、同所にて暫時休息。17時過ぎよりまた馬車で新橋に至りそれより人力車で塩湯へ行き一浴。

そこで税所と別れ宮島と三縁亭で食事し、21時頃徒歩で愛宕下の寄席に立寄り、紋左衛門を聞く。

2月1日 微恙により平臥。坪井晋来る。針医吉川来る。

毛利重輔より15号機関車を仕立て、河村も帰途乗車の旨云ってくる。大山来訪。

2日 今朝雪降り積む、いと面白し。昨夜何時頃より降り出しけむ、今日終日降り暮らし、楼上より眺め暮らしぬ。会社にも出ず、加藤より招きありけれども、皆断りたり。

昼間、荒川来る。夕景、大久保、長谷川来訪し、品川線延期願議決の件聞く。

3日 今日出社し、品川線延期願の事に決す。15時頃より塩湯へ行く。

貴島幸輔に会い、連れ立って同人宅に行く。眺望甚だよし。帰途税所に立寄るも不在。

4日 和田の孫真義来る。

山吉盛典、土方久元来訪。明後6日、元田侍講招待の件を約す。

宮島来る。午餐後同道して本田へ行き、また塩湯へ行き夕食。二度入浴。税所、伊集院は後より来る。

5日 有栖川宮に御帰国のお祝いに参上。

肥田氏に行き御財産の件に付き返答に及ぶ。

午後農商務省へ行き、明治会堂跡拝借の件を西郷に談ず。両3日中に返答するとの事なり。

税所、夕刻に来て晚餐、本田は来ず。

下条に紬縞一反を礼にやる。

6日 税所と根岸の玉中邸に開設した伊藤陳列所を一見し、

二枚折屏風、煙草盆、鉄斎作の急須茶碗等を買う。

16時過ぎより、元田、土方、税所、宮島と三河屋に会す。元田の招待会で御財産などの話があり、また講義を今一回頼んでおく。旧臘下賜された幼学綱要は誰にも下賜されず、佐々木、土方、吉井には遣わすべき御沙汰があつたと聞き、誠に有り難き次第なり。参議の中にまだまだ下賜されない人があるとの話なり。

7日 今朝からまた雪が降り出す。

井上勝帰京につき訪問する。営業の件は格別難しきもようにも見えず大いに安心する。品川線はなお見込ありとの事なり。

今夜、山吉に招かれ、宮島兄弟、安場同席。北海道を開くの論、18年地租改正の論、地券授与改正の論等あり。安場の論に地券は動かすべからずとあり、予は大いに同意を表す。

終日雪降り止まず。

工部省属官高瀬、城井等来る。安川云々につき林復旧の件を聞く。

8日 今朝大雪、5、6尺も積もつた所あり。30年来の大雪

と言う。終日在宅、午後門前の雪を払う。

下条来訪。

山王社内清風軒で秋椀の追善会執行の予定であつたが大雪のため果たさず。

9日 工部省に出頭し、中井に面会。安川の件に付き相談したところ佐々木卿に申し入れるべしとの事なり。

理事会は別に議案無し。

内務卿明日より汽車で熊谷へ出張につき白杉出張する。
元田翁より先日のお礼状来る。

塩湯に一浴、薄暮帰る。

10日 中井宅で午餐、荒川も来る、また伊達仲七と言う人も来る。帰途精養軒で荒川と戯球、四元勝負無し。
幸蔵来る。

11日 能楽堂で桜間の松風、宝生九郎の自然居士を見る。

塩湯に行き本田、宮島と会う。また朝鮮人金玉均に對面する。

12日 佐々木高行病氣につき訪問し、且つ安川の一件を話す。
夜、税所、下条来り晚餐。

13日 朝、安川来り、品川線の件を聞く。

清水誠来り、信州の民林海軍省に買上げの件を聞く。
退社後塩湯に行き本田、宮島と会う。

14日 10時過ぎ、工部省に出頭、井上に営業の件に付き談判し、12時に及びついに承諾させ大いに安心する。安川より種種の事情を聞き、予もまた存知寄りを述べる。
会社にて井上と談判の次第を一同に報告。

山田内務卿、川口より汽車で熊谷へ赴く。白杉出張する。

宮島に琉球絨二反を贈る。

15日 電信局に太田黒、林、白杉と同行し、器械所を一覧する。

杉死去につき品川まで行く。

塩湯の帰途、税所を訪ねるも不在。

16日 今日も又電信局へ行く。石井不在につき福田に面会し、四分六分の割合の件を話しておく。

理事会で品川線買上げ並びに、品川線架設の件など評議し、17時解散。

朝よりまた雪、後雨。

13銀行より金百円引き出す。

17日 会社より塩湯、それより翁屋へ立寄り25日の部屋を予約する。また川村に立寄るも不在。

今日、清水来訪。

18日 照国神社の祭礼につき参拝の積もりで午後出車、川村に立寄り確認したところ不明のため中止する。遠武も来ており暫時話す。正彦海軍に勤められる様頼んでおく。それから松方へ病氣見舞いに行き、また税所に行く。画工住吉某が来ており、秋月の屏風売却の件を頼んでおく。黒田支那行きの件、杉云々等の話を聞く。
夕食の後、塩湯に同行する。

雁一羽、井上勝に贈る。

19日 11時半より杉氏の葬式に行く。辰五郎宅に休憩し、15時に式終る。帰途、塩湯に一浴。

印刷局で元田先生の講義を聴く。譲は札ノ実也能以礼讓治国何有ントノ話有り。

今夕、高崎正風の招きに応じて砂糖製造者安田某に会う。伊地知恒庵も来会。この日終日雨につき東奔西走甚だ困難。

20日 熊谷より高崎間の建築は本間英一郎に担当させる旨井上局長より連絡有り。

西郷、大山、今日より那須温泉へ出立につき見舞いに行く。大山の縁組はいよいよ山川氏に取決めた由聞く。今朝よりまたまた雪降る。

21日 益満来訪、少佐に昇進し近々大津に赴任すると言う。鎮武、近衛隊に呼び寄せられる由、また近衛連隊長が士官学校に問い合わせたところ鎮武の名前が第一位にあつた話なども聞かされる。宮島と炉辺閑談し、彼が詩を作るも記すのは省略し予の一首を記す。

□□□□□語らふ夜半の雪の中に
梅さへ月にほひけるかな

22日 農商務省に出頭し、品川に面会。旧明治会堂拝借の件を話す。

大蔵省へ行き郷に面会、会計規則の件を話す。新橋分局に出頭し、西内丸山へ巳来のことを依頼する。白杉も同行。

塩湯一浴後、売茶亭へ行く。大倉の招待なり。石黒某欧州より帰朝、留学中電気学を修めたとして種々話あり。陸軍より黒田、中村等来る。

今日、澹泊会に行かず。枯木竹石の図を出す。井上局長、玉仲来たれりという。

23日 工部省へ出頭し井上に面会する。林董近頃帰朝し、土中から掘出したと言う小瓶一個を欧州土産としてもら

う。千四五百年前の物と言う。理事会で明治会堂拝借の事に決定する。今夕、又雪降出す。

24日 中井宅で午餐。静岡県大書記官永峰某に面会。税所、高島等も来る。

塩湯に行き、松方に行き鉄道払下げの件並びに当年予算書一覽する。伊集院、税所、久保も来る。林田よりの書画数幅あり。紀伊国屋文左衛門の賛、一蝶の画珍し。

池田家より金三百円借用、会社へ払い込み公債証書四百円差し遣わす。

25日 岩崎弥太郎、伊地知貞香来訪。

能楽堂を見物し、隅田川、船弁慶最も面白し。隅田川は宝生九郎、船弁慶は桜間伴馬、釣狐は山本東次郎なり。帰りがけ税所と塩湯に行く。

26日 本日予の誕生日につき、祝宴を開く。中沢、本田、下条、住吉等来る。

幸蔵帰る。ヨーロッパ行きを聞く。

27日 税所、明日より帰村につき夜訪ねる。高島少将も来て、種々機密の話に及ぶ。李鴻章が各国領事を招いて盛んに夜会を開いたが日本の領事は招かなかつたと言う。

又伊藤参議より秘密の電報が来た事、黒田外遊の話もあり。

28日 税所、帰村につき横浜まで送る。下条、本田も同行する。林屋で午餐。伊藤、玉中も来る。中山氏にて骨董

3月1日

今朝より雪、雨。
夜、高島の宴会に招待される。仁礼少将が近々回艦につき送別の宴なり。奈良原の暴言を聞く。大寺某以前知己なりしとて挨拶されるが予は忘れたり。

2日

今日雨。

理事会で運輸課規則について討議する。

退社後塩湯に行く。

3日

12時会社を出て能楽堂へ行き、子安の鉢の木、前田の誓願寺を見る。

正彦が海軍省御用係会計課勤務を命ぜられ、月給金15円賜る。

4日

久々にて天気晴朗。午前揮毫。午後入歯師に行く。

塩湯に一浴、三縁亭で本田、石井と共に晚餐。後戯球、22時過ぎ帰宅。

鹿児島県令渡辺千秋より薩隅日三州の略図並びに現事の梗概一冊を贈ってよこす。

5日

一川研三来訪し、北岡古口怪我をしたため詫びてくれる様頼まれる。

昨夜、木挽町から出火、会社大混雑との連絡が有り早速出社し、尽力した面々に金一円ずつ支給する。

中井宅を訪問する。吉原、井上、加藤ら来る。中井に順聖公記念碑の件を依頼する。井上に塩湯の入口の道

6日

日本銀行に行き、富田、安田に面会し会計規則の件を話す。北岡に古銅破壊の詫びをしようとするが本日は欠勤。

退社後塩湯。夜、宮島来て晚餐。

蜂須賀茂韶氏が来て、15日の夜会の吹聴あり。

本田会社に来る。

7日

農商務省で安田に面会し、明治会堂拝借の件並びに開拓地山林払下げの件を頼む。

上野工場に行き増田に面会。12時頃からドコービルで王子へ行き、扇屋で午餐。道灌山下で、国沢夫婦に会う。橋も明朝には落成すると言う。そこから車に乗り砂利取場を見、荒川橋を今日初めて渡り大いに愉快なり、ついに川口に至る。川村参議熊谷より帰るのに出会い同車して上野に18時前に着く。事務所です時休憩し、川村と別れ19時頃帰宅。

8日

会社で午餐後、13時の車で大森へ行き蒲田の梅を見る。伊達公も一緒なり。本田も来る。山本で一献。大森停車場から20町徒歩で往来。

井上局長から品川線路の意見書来る。

川村より雉二羽来る。

松田本生死去の知らせ来る。

山林払下げの件で武井、岩山に依頼状を出す。岩山より返事来る。

安田より明治会堂の件に付き西郷が帰京後返事をする旨連絡が来る。

9日 理事会に品川線の議題を出す。予は来客のため先に退出する。

今夕、高島中将、林董、中井、本田等来会し晚餐。林は有栖川宮に随行し近頃帰朝するが、スペインの闘牛の話が珍しい。

10日 10時より宮内省に井上局長と出頭し、徳大寺卿に拝謁を申込みが、用事のため面会できず、宮内卿にお召車の件を申上げる。

それより塩湯に行く。名保と寅治が待っていて午餐。

宮島、下条も来る。帰途本田に会い、今拙宅を訪ねたところだと云って山林払下げの一件について話を聞く。宮島、下条と能楽堂に行く。九郎の橋弁慶、実の阿漕、金剛の檀風最も良し。

帰途塩湯に行き、三縁亭で晚餐。23時前徒歩で帰る。

島津忠寛君より鴨2、3羽到来。

林董氏よりトレドの剣一口惠贈、珍品なり。

西郷菊次郎来る、従道の株金五百円持参。

12日 陶器火鉢一個 袴地一反 思召しにより下賜され、有難く頂戴する。

根岸玉中へ行くも不在、古銅器破損の件に付き北岡に談判依頼のためなり。

水産博覧会を見る。我県の陳列所大いに整頓されているのを見て喜ぶ。

土方氏宅で会合と思ひ出かけた所明日との事で不在、空しく帰る。

13日 本日も少々気分優れずよって不参。終日炉辺に閑居、揮毫などで日を消す。雨降り。

14日 拝領の御礼に参内し、当番にお礼を申上げ、萩侍従より御礼を申上げる。

勝氏を訪ね、北岡に古銅器買戻しの件を依頼したところ委細承知された。

黒田老公の屋敷を訪ね、家令に面会して順聖公記念碑（見か）積書を渡す。

会社より15時過塩湯に行く。それより伊集院、税所、幸蔵宅を訪ね、18時頃より益田孝宅に赴く。これは山川氏の娘を大山に縁組みさせる件についての相談なり。

会席料理の馳走で落語家の余興が有り、宇都宮釣天井の一段を聞く。中井、安田、伊集院同席。

15日 大久保利和来訪し、品川線の件に付き数刻談話。

15時過ぎより北川、鬼塚来訪、同じく品川線の件につき異見を聞く。

澹泊会に出す予の山水は11点で第一等。蜂須賀茂韶君が延遠館で催した夜会に赴き、23時頃帰宅。

16日 14時より岩倉殿へ参上、頃日品川線の紛紜の件につき御下問あり、委曲上申。

理事会で明治21年まで入金取調べの上猶予願ひ出すことに決定とのこと。

17日 14時退出、塩湯に行く。宮島来る。浴後同行して一柳

18日 を訪ね、水産の話(博覧会か)などして22時頃帰宅。
今朝、佐野常民より龍池会加入の申込みがありその意
に添う様返事をする。

寅治を連れ上野不忍池長蛇亭に参会。フランスに差し
出す絵が出来上がり一見する。これが龍池会なり。
水産博覧会を見、精養軒で午餐。玉の家で道具を見る。
玉中へ箸取繕を頼む。おみつ所有の品なり。18時頃帰
る。

19日 朝出掛けに、勝を訪う。古銅の一件なり。
工部省に出頭し井上に面会、品川線談判金額取調書
を見せる。

会社に出、北岡が来て古銅一件の話がある。
伝(電) 話機今日より仕掛ける。塩湯に行く。

20日 今日また雨、雪紛々たり。

朝、長岡護美君、ベルギー人を同伴して来る。彼は器
械学を専攻し、鉄道用の鉄具売込みの為に来日した由。
大山、西郷、昨夜帰京の由にて大山来る。夜、大山宅
で晚餐。

21日 春季皇霊祭につき休暇。

海江田来訪、種々昔話あり。月照上人の碑銘並びに伏
見で変死した有馬橋口らの碑銘の話などあり、且つ雄
介、次左衛門兄弟の事も聞く。更に漢学振興の話を開
き大いに同意する。

宮島と午後より塩湯に行く。松金で鰻を食う。末川、
明日より熱海に行くとして来る。

22日 ベルギー人並びに長岡護美、西内、島崎、白杉等と上
野精養軒で午餐。

15時頃玉中へ行き、買物代9円30銭払う。
山尾氏に観梅の宴に招かれる。河瀬、渡辺、田中、水
本、宮島兄弟等同席。

23日 新橋停車場でベルギー人と面会、器械所などを見、午
餐を出す。南も来る。

理事会の議案はなし。北川、鬼塚と別席で話す。8月
の総会で品川線着手の事に理事会では決めておきたく、
且つ熱海行きの間代理の義を依頼する。

お信、大病の由連絡あるにつき早退する。岩倉公に参
上し、井上にお下げの草案を拝見。

夜、大山へ行く。お信の病氣少し穏やかなり。

24日 お信、今日少々容体よろし、よって午後暫時出社する。

北川から品川線8月総会まで延引の件は理事に異論は
ない旨報告あり。

塩湯に行く。

林賢徳倅死去につき見舞う。

吉田清成宅で宴会、アメリカより帰ってきた女子3人
が来ていた。

25日 終日雨、閑居揮毫。

大山に立寄る、お信大いに良し。山川氏に結納の件を
相談し、西郷に立寄るも不在。

26日 工部省に出頭し、鉄道局長に面会する。品川線8月総
会まで延期の件漸く談判相整う。一先ず安心せり。十

五銀行に立寄り、池田、北川両氏に面会井上と談判の次第を告げ、熱海行の間代理の儀を池田君に頼む。印刷局で元田翁の講義あり、好学の章大いに面白し。夜、ドイツ公使館で夜会。

27日

14時頃能楽堂へ行く。本日は皇太后宮の行啓あり。帰りがけ塩湯へ行く。

中井より山川氏の結納の件暫時見合わせる様云つてくる。

28日

午前大雨、12時前に晴れる。

14時頃より農商務省へ出頭し、武井書記官に面会、明治会堂拝借の件並びに山林払下げの件を依頼する。

16時頃、西郷来訪。大山縁組みの件並びに明治会堂拝借の件につき話す。

井上より、よき話あるにつき参上する様手紙が来る。

夜、大久保、荒川より精養軒へ晚餐に来る様との連絡があり18時に行く。中井と戯球。

29日

10時宮内省へ出頭。大臣方休息の間、宮内卿より元田、土方、予の三人に皇居御造営についての意見があらば申上げよとの沙汰につき、財政逼迫のりから、壮大な建築は最もしかるべからずと申上げる。

夜、中沢夫婦、幸蔵夫婦を招き晚餐。鎮武も今日小倉より帰京。大山食後來る。23時頃おのおの退散。

30日

午前工部省へ出頭し井上に面会、運輸課規則など見る。理事会の議案は別になし。明後日より出発の旨告げる。朝、林賢徳来る。

31日

16時頃塩湯に行く。それから松方の子息ヨーロッパに行くにつき暇乞いに行く。客の来るもの多し。中沢より孔子の像並びに光久公の御画など来る。明日より熱海行きにつき会社で社員に挨拶し、12時に退社。

五銀行に立寄り柏村に面会、池田氏に伝言を頼む。松方を訪問するが未だ横浜より帰らぬ由。

松金で午餐。塩湯に入る。宮島と会う。皇居建築の件についての建言の話をし、17時頃帰宅し旅装の準備をする。

岩倉殿より井上への下問、井上よりの返答などの件一括して白杉へ廻す。

(未完・以下次号)